

## ① 耕作放棄地について

全国的に農業従事者の高齢化と後継者不足により廃業に伴う耕作放棄地が増えています。耕作放棄地の増加は食料自給率低下、周辺環境や景観などに悪影響を及ぼしてしまいます。

そこで本町の耕作放棄地の現状や今後の活用法について、以下の質問をいたします。

- (1) 3年以上耕作放棄地になっている土地はどれくらいあるのか。
- (2) 耕作放棄地をふれあい農園として貸し出せないか。また、本町以外の長崎県民に貸し出すことはできないか。
- (3) 現在ふれあい農園の待機者はどれくらいいるのか。
- (4) 3年以上耕作放棄地になっている所で、新規就農者を募集し有機栽培オリーブを栽培してはどうか。

## ② オーガニックビレッジ宣言への取り組みについて

農林水産省では、みどりの食料システム戦略を踏まえ、オーガニックビレッジの創出に取り組んでいます。そして、オーガニックビレッジを2025年までに100市町村、2030年までに200市町村創出することを目標に全国各地での産地づくりを推進しています。

オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みを進める市町村のことを言います。本町が有機農業が盛んな町になれば地産地消で健康寿命が伸び、幸福度も高くなると考えます。

本町では2030年までにオーガニックビレッジ宣言することは難しく、もっと長い年月がかかるだろうと思いますが、取り組んでいく考えはあるか質問します。

## ③ 2025年太陽フレア問題について

総務省は2022年に、太陽フレア発生時の被害想定と対策をまとめた報告書案を発表しました。その「最悪のシナリオ」では地球上の磁気が乱れることで、約2週間ほど大規模停電や通信障害が起きるおそれがあると報告しています。

そのような事態になった時、本町でどのような被害が起きるのか、また町民にどのような影響が出るのかをシュミレーションし、それに対する対策をどのように準備しているかを質問します。